



No.151 2020. 9

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

『光明』最新第216号を読んで

～同事を生きる～

真言宗豊山派の季刊誌『光明』が一回のお休みをはさんで、半年ぶりに発行されました。今号では「皆が共に生きる世を目指して」と題し、豊山派寺院が運営する障がい者施設が特集されています。内容については冊子をご覧くださいととして、この記事から掘り起こされた私の思いも合わせてお読みいただければ幸いです。

私の大切な友人が2019年の10月にこの世を去りました。名を松兼功さんといいます。59歳でした。

松兼さんは、生まれながらにして脳性麻痺という重い障がいをもっており、そのため手足を自由に動かすことができず、また言語障がいもありました。そのような身体であっても、幼いころから自立を目指していた彼は、小学生時代に特訓を重ねタイプライターを扱えるようになりま

す。といっても手は思うように動かさせませんから、もっぱら彼が使用するのは鼻でした。鼻でキーボードを打ち、自分の言いたいことを伝えるのです。ちなみにとってもお茶目な松兼さんが、初めて書いたまとまった文章は、あこがれの先輩にあてたラブレターだったそうです。

大人になった松兼さんは、周囲からの反対を押し切り筑波大学に入学、寮に入居。紆余曲折を経て卒業後はフリーライター兼詩人として日経新聞や東京新聞などに連載をもち、著作も多数刊行されています。



光明第216号

松兼さんとはお酒を飲みながら（同伴者がグラスにストローを指して口元まで運びます）いろいろなことを話しました。なかでも最も印象的だったのが「一人一人がここでのバリアフリーを進めてくれたら嬉しい」という言葉。



松兼さんと

私たちは、性別、年代、人種、国籍、能力などによって、自分と他者を線引きします。そしてそのことによって生まれる苦しみ悲しみが世の中には数多く存在します。そんな困難を本当にたくさん経験してきた松兼さんだからこそ、本人ではどうにもできない属性によって人々が分断されてしまうことを嘆き、またそのようなことが起きない社会を願っていたのだと私は想像しています。

松兼さんのことを考えるとき、私の頭にはいつも仏教の教えにある「**同事**」という言葉が浮かびます。**同事とは、事を同じくして苦楽をとにもすること。**これを曹洞宗の開祖である道元さんは「**不違**」という二字で表しました。「**自他一如**」といっても良いでしょう。金子みすゞは「みんな違ってみんないい」と表現することで、多様性の尊さを謳いました。一つ一つの個性を尊重することはすばらしい。そのうえで、もっと視野を広げたときに見える、一人一人は異なる存在であっても、同時に決して別のものではない。「**個**」は「**同事**」という土台の上にあるという感覚を私は持ち続けていたいと思います。

今回の『光明』で紹介されていた障がい者施設は、まさにそのことを実践されている場所です。そして、それを教えてくれた松兼さんと知り合えたことに、私は今、改めてこれ以上ないありがたさを感じています。（真了）

寶泉寺のコロナ対策

ご法事の際は、しっかりと換気を行いつつ、皆さまにはじゅうぶんに間隔をとってお座りいただいています。参列人数は25名程度であれば問題ございません。それ以上の場合はご相談ください。

法要後の会食についてもお部屋をご利用いただけます。マスクは、各々でご持参いただけますとありがたいです。また、ご親族程度の範囲のご参列であれば、お葬式を行うことも可能です。詳細はお問い合わせください。

マスク着用
アルコール消毒
ご協力お願いいたします



ご詠歌と写経のお誘い

ご詠歌

毎月第二、第四水曜日、2時から。

現在、ご詠歌の集いは、マスク着用のもと、通常より各々の間隔をあけ練習しています。また、お唱えの時間自体を減らし、教本のなかで説かれる教えや空海さんの生涯などをみんなで語り合う、ちょっとした仏教サロンのような形をとっています。歌が苦手でも全く問題なし！いつでもお気軽におこしください。

写経

毎月第二、
第四月曜日、

10時から開いています。ちょっとでもやってみたいなど思われる方はどうぞおいでください。書道用具一式、小筆をお持ちください、もちろんマスクも。用紙や経本は寶泉寺で用意しております。



ところで日本への
仏教伝来のはじめは

経典の一文字一文字を書き写すこと、つまり写経だったのです。印刷技術はもちろん版木もまだ開発されていません、職業？としての写経もあり、時代によっては国の役人でもあったようです。時代が進み写経は奈良平安の昔は貴人の素養でもあり修養や芸術など、とりわけ祈願を込めるには写経が行われました。今では各地の博物館や御寺院には芸術作品として、なおかつ歴史資料として残されています。

寶泉寺の写経は芸術、修養でもありませんが、心を静かにして一心に筆と墨に集中する場と考えています。そして楽しいお茶で締めくくることが寶泉寺流としています。

3月31日の追加郵送をお受けいたします。

離れて住むお子さんや、ご兄弟ご親戚にも送って欲しいというご要望がございましたら遠慮なくお申し出ください。

歩道の新設工事が始まります

寶泉寺の塀と駐車場が一新されてから約4か月が経ちました。お寺の前の公道に歩道が新設されることからの処置でしたが、おかげ様で好評をいただいています。

その歩道の設置工事が間もなく始まるようです。具体的な日程は確定していないものの2020年度中には終了するとのこと。駐車場の出入口が使用できないタイミングがあるかもしれませんので、どうぞご注意ください（今年のお彼岸中は大丈夫です）。

※ 出入口は本堂寄りに移動しています。また、お車は必ず塀の内側にお停めください。

今年の施餓鬼会は

コロナウイルス感染拡大を防ぐため、僧侶3名、参列者役員8名で厳修いたしました。

皆さんの参列のない施餓鬼会は、やはり寂しいものでした。来年は通常に戻ってくれると良いのですが…。



編集後記

- ・ここ数年雑木林でスダチがみのるようになった。頃合いを見て本堂前に置きますので、お参りの際にどうぞ。柿は今年もダメ、柿栽培の方と知り合い、少しずつ教えていただいているのだが…。
- ・奈良東大寺創建は当時の飢餓、地震、伝染病などの社会不安に対するものだったことは有名な話。写経も同じ願いを込めて盛んに行われた。今日は休み明け久しぶりの写経の日、小僧(しょうそう)もこれからは疫病退散を祈願にしよう。
- ・新型コロナ感染が始まって半年が過ぎた。対する薬やワクチンはまだだが治療法は進んでいるらしい、マスクの効用がいわれて安心感が増した気がする。三密と社会的距離をとり、正しく恐れることが肝要。
- ・寶泉寺でも大事な法要は大幅に縮小して行わざるを得なかった。楽しみにしている当地区のお祭りや神社の祭礼も中止となり、来年こそはと祈るばかりだ。
- ・今日、新しい首相が決まる、政治には多くの国民が納得できる説明が欲しい。

Sep. 14. 2020 (琴)